

芦安中学校（前期）自己評価書

平成24年8月31日
南アルプス市立芦安中学校
校長 興水 哲男

1 前期自己評価の経過

- (1) 前期教職員対象アンケート及び生徒対象アンケートの実施（7月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（8月22日）

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 教育目標

〔達成状況〕

学校教育目標から出発した教育活動の展開、意識化については概ね良好な状況にあり、学校教育目標具現化に向け、学校経営方針を理解し教育活動を行っている。

〔改善策〕

今後とも学校教育目標を全教職員が意識し、その目標の達成に向けて、日々のすべての教育活動の中で組織的・継続的に取り組んでいく。

(2) 学校運営

〔達成状況〕

・「校務分掌」については、本年度、職員数減の中でどの職員も多くの仕事を抱えており、すべてが適切に機能しているとは言い難い。

・校内研究については、昨年度に比べ校内研究を意識して日々の授業に取り組む職員が増えている。反面、市や中巨摩からの指定研究のために十分な話し合いができなかったという意見もある。

・「報告・連絡・相談」の状況は良好で、開かれた風通しの良い職場となっている。しかし、生徒を残したときの指導に対して、共通理解不足も指摘されている。

〔改善策〕

・学校現場の職務内容を考えると分掌を平均化することは難しいが、学年体制で補える部分、職員全体でバックアップできる内容等、状況に応じて複数職員で対応できるような協働体制をさらに強めていかなければならない。

・2学期以降は、授業研究が中心となるので、生徒の実態を踏まえながら、「知る」「分かる」「できる」を意識し、学び合いを高める実践的な校内研究となるよう努力していきたい。

・職員室が、授業や生活における生徒の情報や指導方針を共有できる場として、今後も機能させていきたい。

(3) 学習指導

〔達成状況〕

・「個に配慮した授業」について教職員の意識が高いが、「学び合う授業」については、C評価が多い。

・生徒が「心から考えたり感じたりする道徳の授業」「意欲的に追求する総合的な学習」については課題がある。

〔改善策〕

・生徒の実態を考えると基礎学力を定着させるためのドリル的な学習に時間をかけざるを得ない状況もある。基礎学力の定着を図るために、まなびの時・放課後の補習の充実や保護者と連携し家庭学習の習慣化を図っていきたい。また、人の話を聞く、ノート整理の仕方、学習用具や宿題を忘れないなどの基本的な学習規律も徹底していきたい。

・他人を思いやる心、正しい判断力など道徳実践力を育てるために、道徳の時間や学校教育全体での指導を連携して行う。

(4) 生徒指導

〔達成状況〕

・学校生活について、教師アンケートも含め「明るく楽しい」と感じている生徒や「仲のよい友だちが複数いる」という生徒の割合が多く、比較的安定した学校生活を過ごしている。しかし、「困った時に相談できる先生」がいない子も2名いる。

・「生徒の言葉づかい」が教職員の課題として指摘されている。(生徒の評価とは逆の結果となっている。)

〔改善策〕

・普段から生徒の話聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるとともに、生徒の情報収集のアンテナを高くしておく。生徒の情報交換と指導方針を共有し合い、全職員で同じ歩調で対応していく。

・適切でない言葉が発せられたときは、その都度言い直しをさせる。また、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導していく。

(5) 学校生活全般(行事・部活動・生徒会活動・・・)

〔達成状況〕

・全校仙丈ヶ岳登山では、地域の支援者の協力の下、生徒たちは苦楽を共にする活動の中で仲間意識を強め、達成感を得ることができた。

・バドミントン部では、昨年度より意欲的に取り組んでいる様子が見られ、生徒全員がA評価であった。

また、夜叉神太鼓では、上級生が1年生に指導する場面も見られ、真剣に練習に取り組んでいる。

・生徒が減少する中で、太鼓や部活動等のあり方について見直す時期であるという意見も出ている。

・生徒会など自治的活動に対して意欲的・主体的に取り組む点でC評価が多い。

〔改善策〕

・登山については、「登らされている登山」でなく、主体的に登山に臨めるように、生徒の実態にあったテーマ設定を行い、思いを持ち帰って来られるような取り組みを今後も考えていく。本年度の白峰祭ではその感動を伝えられる写真と詩の発表に取り組ませたい。

・学校生活の中でも大きな比重を占める部活動の指導では、子どもたちの意欲を向上させ主体的な練習を喚起していきたい。指導にあたっては太鼓指導のような外部指導者や1学期に行った保護者主催の練習会などもお願いしていきたい。

・学校生活の中でも、生徒の「主体性・自主性」は課題となっている。昨年度から行っているように学習や諸活動の中で、生徒が選択し決定する場面をできるだけ取り入れていき、認める・褒める活動を意識的に行っていく、自己肯定感が持てるようにしたい。

(6) 家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

・地域の人材の有効活用や地域行事への積極的な関わりは評価が高い。これは、ふれあい道徳授業、全校登山に向けての事前学習や登山支援で、地域の支援者に有意義な指導をしていただいたことや新緑ふれあい祭への参加が評価された結果となっている。

・宿題や家庭学習の取り組みは、まだ十分とは言えない。

・小中連携については、これまでに2回合同会議を行い、それぞれの現状や課題を話し合い、9年間で子どもたちを育てるという意識を高めてきた。

〔改善策〕

・家庭における学習習慣を確立することは、生徒の学力向上に必要不可欠である。家庭と連携して粘り強く取り組んでいきたい。

・小学校との連携については、小中合同会議のみでなく、全ての教職員が日常的に柔らかな交流を進めていくことによって、小中間の学校文化や意識の溝を埋めていくことをめざしていきたい。お互いの授業研究へ参加したり、小学校で中学校教師が授業をしたり、教職員同士の交流や意見交換(学習規律、家庭学習、生活指導等)ができる機会を増やしていきたい。

(7) その他

・すべての活動にはねらいがある。「やらないより、やった方がいい」「毎年やっているから」という消極的な発想でなく、芦安中の子どもにどんな力をつけさせたいのか、そのためにどんなことをすればいいのかを考え、来年度に向けての行事や諸活動の見直しを2学期より検討していきたい。